

法学部A方式Ⅰ日程・文学部A方式Ⅱ日程・経営学部A方式Ⅱ日程

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ペー ジ	科 目	ペー ジ
政治・経済	2～27	日 本 史	28～45
世 界 史	46～61	地 理	62～77
数 学	78～83		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
4. **数学**については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

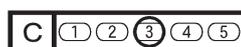
記入上の注意

1. 記入例 解答を**3**にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

6. 問題冊子のページを切り離さないこと。

(世界史)

〔I〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。

中国河南省許昌市の東側約17キロメートルのところに、周代の小国であった許国の都の遺跡がある。許国は最終的に戦国の初期に楚国によって滅ぼされたが、許あるいは許都とも称されるこの都市は、後漢末期の二十数年間、最後の皇帝である献帝が居する後漢王朝の都となった。後漢は、王莽が建てた新王朝の滅亡後、漢室の一族であった南陽出身の劉秀(光武帝)によって漢王朝が再興されたものである。新末に起こった反乱軍は、などの農民を主体とするものと、各地のを主体とするものとに分けられるが、劉秀は後者、すなわちを主体として蜂起した反乱軍の1人であった。

後漢では、建国されてから約200年の間、都は洛陽に置かれてきた。後漢の初期には第二代明帝、第三代章帝と英明な皇帝が続き、製紙技術の改良で知られるや『漢書』を著した班固などが活躍し、文化活動が大いに盛んになった。班固の弟である班超は西域経営に手腕を発揮した。彼は西域に派遣されて、西域都護となり、北西インドから発展してきた朝の軍を破ってパミール山脈の東西50余国を統括した。班超の部下のは97年に国(ローマ帝国)に派遣され、国(パルティア)をすぎて条支国(シリアか?)の大海にいたるが、ここより引き返している。『後漢書』西域伝には、王安敦の使者が象牙や犀角などを携えてベトナム中部にあった郡に到着したことが記されている。郡は最南の郡で、後漢末にはその象林県から林邑が独立している。班超の西域赴任の少し前には、交趾(ベトナム北部)でが発生した。この反乱は將軍馬援によって鎮圧されたが、後世の外国支配に対するベトナム人の反抗の象徴とされている。

後漢は、建国にあたりの力を借りたことから、当初よりの連合政権であり、第四代和帝以後、幼少かつ病弱な皇帝が立てられることが多く、前漢と同様に外戚と宦官が政争を繰り返す結果となった。しかし、後漢では

新たにもう一つの勢力の登場をみる。劉秀は洛陽に太学という儒学にもとづく教育を行う機関を設立した。前漢の武帝のときに [5] の建議により五経博士がおかれたとされるが、それ以降太学も⁽³⁾経学教育の場として長安に設置されていた。これを劉秀は建国当初の段階で洛陽に開設したことから、後漢では知識人が多く輩出され、外戚と宦官の弊害を批判する勢力となっていた。儒教的教養をもつ彼らは2世紀の後半より直接宦官と争いを起こし、宦官は彼らを弾圧したが、⁽⁵⁾のちの知識貴族による社会の萌芽はここに生まれてきたのである。政権の弛緩は腐敗を生み、社会の混乱を招いていく。後漢末には飢饉も重なり、 [ウ] と称される農民反乱が発生した。 [ウ] の乱は太平道の創始者である [6] が貧窮した農民を率いて起こした反乱である。また、四川地域では天師道とも称される五斗米道が [7] によって展開された。これらの争乱は各地に飛び火すると政権に不満をもつ各地の群雄の自立を誘発し、後漢王朝の滅亡の引き金となった。 [ウ] の乱を機に登場し、洛陽を占拠して専横を極めた董卓を討つため結集した義勇軍の中に曹操がいた。彼は [ウ] の勢力が占拠する許を制圧後、自らの本拠地とした。董卓は洛陽を焼き払い一時長安に献帝を囲っていたが、彼の死後に洛陽に戻っていた献帝を曹操は許に迎えた。ここに許は後漢の都となった。

こののち許を拠点として曹操は対抗勢力であった袁紹との官渡の戦いを制して勢力を拡大するが、長江中下流域に勢力を張る孫権を討つため南進して赤壁の戦いで敗北した後、献帝を許に残したまま魏王として袁紹の本拠地であった鄴に自らの拠点を置いた。鄴の遺跡は甲骨文字が出土した [エ] という遺跡のある河南省安陽市の東北、河南省と河北省の省境を流れる漳河の北岸にある。2009年、この遺跡の西側約十数キロのところで曹操の墓(高陵)とされる遺跡が発見された。曹操の死後、その息子である曹丕は、許にいた献帝より [オ] の形をとって即位して魏王朝を建て、都を再び洛陽とした。魏王朝では許は許昌とよばれ、王朝の重要な都市としての位置づけを維持するが、⁽⁶⁾五胡十六国時代から南北朝期にかけて繰り返された戦乱の中で荒廃してしまい、許昌という行政府の名称は他地において存在し続けるものの、後漢の都であった都市は歴史の舞台からその姿を消すことになった。

世界史

問1 文中の空欄 ～ に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

〔語群〕

- | | | | |
|------|------|--------|-------|
| a 安西 | b 安北 | c 殷墟 | d 河姆渡 |
| e 月氏 | f 仰韶 | g 紅巾 | h 黄巾 |
| i 鎬京 | j 豪族 | k 呉楚七国 | l 氏族 |
| m 赤眉 | n 禅讓 | o 部族 | p 放伐 |

問2 文中の空欄 ～ に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

〔語群〕

- | | | | |
|-------|---------|--------|--------|
| a 安息 | b 霍去病 | c 甘英 | d 阮籍 |
| e 寇謙之 | f クシャーナ | g グプタ | h 前秦 |
| i 諸葛亮 | j 大越 | k 大秦 | l 張角 |
| m 張騫 | n 張陵 | o 董仲舒 | p 東晋 |
| q 南越 | r 扶南 | s ホータン | t マウリヤ |
| u 李広利 | v 李陵 | | |

問3 下線部(1)について、新はわずか15年にして滅亡した。その説明として最も適切なものを以下の a～d のうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 周代を理想とする政治を行なおうと、あらゆる方面に急激な改革が施行されたため。
- b 万里の長城などの大土木工事に農民を動員したため。
- c 南方民族の制圧に頻繁に遠征軍を派遣したため。
- d 宦官の専横と官僚の汚職が蔓延したため。

問4 下線部(2)について、以下の a～d のうちで後漢時代の活動ではないものはいくつあるか。その数を解答欄にマークせよ。

- a 小篆について文字の成立から解説した中国最古の字書である『説文解字』を許慎が編纂した。
- b 渾天儀という天文観測器や候風地動儀という地震計を張衡が発明した。
- c 現存する最古の農業書である『齊民要術』を賈思勰が著した。
- d 医薬書である『本草綱目』を李時珍が編纂した。

問5 下線部(3)について、五経とは儒学の経典として定められた5つの書物をいうが、以下の a～g のうちで五経に含まれないものはいくつあるか。その数を解答欄にマークせよ。

- a 易経 b 詩経 c 礼記 d 春秋 e 大学
- f 中庸 g 論語

問6 下線部(4)について、後漢の馬融や鄭玄らがすぐれた業績を残した学問で、経書を理解するために注釈を加えた学問を何というか。漢字で解答欄に記せ。

問7 下線部(5)について、宦官が儒教的教養をもつ人々を弾圧した事件を何と称するか。解答欄に記せ。

問8 下線部(6)について、匈奴などの北方諸民族によっておこされ、西晋の滅亡と五胡十六国の混乱を導くきっかけとなった兵乱を何と称するか。解答欄に記せ。

問9 空欄 に入る、樹皮・麻くず・魚網などの繊維物質を材料とした製紙技術を改良した人物の姓名を、漢字で解答欄に記せ。

問10 空欄 に入る、漢最南の郡の名称を、漢字で解答欄に記せ。

世界史

問11 空欄 に入る，後漢の初期に交趾(ベトナム北部)で発生した反乱の名称を，解答欄に記せ。

〔Ⅱ〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。

地球上で北極・南極それぞれを中心とした地域を極地という。北極の場合は北緯66度以北、南極の場合は南極大陸とその周辺を指す。この極地は人類が生存し活動するには極めて厳しい自然環境の支配する地域でありながら、古くから人びとの関心を引きつけてきた。

遠洋航海の技術を習得したヨーロッパ各国が、最初に洋上遠く進出したのは大西洋であった。まずスペイン・ポルトガルが大西洋を南下し、アフリカ大陸の南端⁽¹⁾を東に回ってインド洋に入る航路を開拓した。また1492年にサンサルバドル島に達したコロンブスを筆頭に、西に向かいアメリカ大陸に至った。スペイン・ポルトガル両国は、1494年、航海の過程で新たに発見される土地に関し、両国で分割して所有する協定⁽²⁾を結んだ。

海洋への進出において後発となったイギリス・オランダが活路を見出したのは、北方であった。すでに12世紀にはノルマン人⁽³⁾が北大西洋を横断し、1に率いられてグリーンランドや北アメリカ大陸に到達していたとされる。また中世以来各国の漁船は、ニシンやタラ、クジラといった水産資源の良質な漁場を求めてヨーロッパ大陸沿岸から次第に移動し、北大西洋に進出していた。イギリスやオランダの大西洋への進出は、スペイン・ポルトガルの独占するインド航路以外によるインド・アジア地域への通商路を確保するという目的のほか、自国の漁船のための漁場や加工場を確保する狙いもあった。

イタリア人 2 はイギリス国王ヘンリ7世⁽⁴⁾(在位1485–1509)の命を受けて1496から97年に北西海域を探検し、ニューファンドランド島を発見し、そこがタラの好漁場であることを報告した。その後継者たちは16世紀末から17世紀にかけてさらに北のハドソン湾やバフィン湾に達した。現在のカナダ北部に位置する同地は、アメリカ大陸北岸を回ってアジアに向かう航路探検の足がかりとなった。同じ頃、オランダはバレンツの率いる探検船団を3次にわたって北洋に派遣し、スピッツベルゲン島を発見、やがて同地周辺では捕鯨が盛んにおこなわれるようになった。しかし、1588年、3らが率いるイギリス海軍がアルマダの戦いに勝利すると、スペインの影響力は徐々に低下してイギリス船やオランダ船が

世界史

大西洋から南回りで東洋に向かうルートが確保され、気象条件の厳しい北回りの通商路開拓はあまり大きな意味は持たなくなっていた。

このほか、極地は新領土獲得という点でも有望であるように思われた。デンマークはすでに14世紀末にノルウェー・スウェーデンと同君連合を結んで一大勢力圏を築き上げ、これとともに以前からノルウェーが支配していたアイスランドをも支配下に収めた。18世紀にはさらにグリーンランドを植民地とすることになる。ロシアは、モスクワ大公国の のもと東方への進出を開始し、それはロマノフ朝に引き継がれた。ピョートル1世(大帝)は積極的にシベリア進出を行い、ロシア帝国の版図は太平洋岸に至った。デンマーク人 は、皇帝の命によりカムチャツカ半島から出発し、のちに彼の名が付けられた海峡を渡って北米大陸の西端を探検した。その後 と名付けられたこの地域はロシア領となった。

さて、17世紀になると、科学と技術の進歩をもとに、自然界を観察してその法則性を発見しようとする態度が広まった。理性的な思考にもとづいた実験と観察をおこなって法則を導きだし、その検証により理論を確立する、といった手続きを身につけた科学者たちは、科学アカデミーや協会といった各種の学術団体につどい、重要な発明や発見を成し遂げていった。このような 革命と呼ばれる一連の変化のうえに、さらに18世紀になると 思想が出現し、合理的批判精神によって新たな知識を獲得することで世界の絶えざる進歩が可能であるという楽観的な見方が生じた。これによってさらに近代自然科学の発達と普及が促された。ヨーロッパから遠く離れた大洋や極地はこうした新しい知識を求める科学的探求に格好の舞台を提供するものだった。イギリスの は1768年から80年にかけて3回にわたって世界を周航し両極地を含む各地を探検したが、そのきっかけのひとつは金星の太陽面通過(1769年)の観察であった。

19世紀初頭のナポレオン戦争はヨーロッパの地図を大きく変えたが、北欧も例外ではなかった。⁽⁷⁾フィンランドはロシア領となり、最後までフランスに忠実であったデンマークは1814年のキール条約でノルウェーを失い、ノルウェーはスウェーデンとの同君連合体制に移行する。

1815年に戦争が終結すると、通商路の開拓や新領土の取得といったこれまでの

目的に加えて、それまでほとんど未知の状態であった極地を探検しその実情を明らかにすることで内外に向けて国家の威信を発揚するという新たな意味が加わってきた。背景にあったのはヨーロッパ各国社会におけるナショナリズムの高まりである。国民は自国による海外への遠征や植民地の獲得を歓迎しただけでなく、世界各地の未知の地域への探検や冒険に熱狂し、またそこで得られる地理学や生物学、考古学や文献学といった学術的な調査の成果を賞賛するようになった。⁽⁸⁾

イギリスは国家的事業として北米大陸の北を通って太平洋に至る北西航路の探検に取り組んだ。1845年に派遣されたフランクリン隊は遭難し、隊員129名が全員死亡するという最悪の事態を招いた。その救援隊として10年以上にわたって計18隊が送り出され、搜索活動のかたわら探検や学術的な調査をおこなった。その隊のひとつが東廻りかつ犬橇の一部併用という制約の下ではあったが北西航路の通過について成功している。

ユーラシア大陸の北側の北東航路でも、19世紀末には各国が競うように周辺地域の開拓とその地域の科学的な解明に力を注いだ。ロシア帝国以外ではオーストリア帝国⁽⁹⁾の探検隊が1872年にバレンツ海の北縁にフランツ・ヨゼフ諸島を発見したほか、1878から翌年にかけてスウェーデンのノルデンショルドが初めて北東航路の通過に成功した。さらに、1909年、最初に北極点に到達したのは、グリーンランドを横断・探検した経験のあるアメリカ合衆国の であった。1905年にスウェーデンから独立したノルウェーでも、新しい国家の国威発揚と科学調査の結合による極地探検は重要な意味を持った。同国の探検家ナンセンは特殊な艤装を施した探検船 Fram 号を用いて北極海を横断し、同地域の科学的解明に大きな功績を挙げた。同じノルウェーの は北西航路の東廻りの完全な通過に成功したほか、さらに1912年にナンセンから譲り受けた Fram 号を用いて南極点到達を達成した。

20世紀にはいると、極地探検の意義はますます科学調査に傾斜するようになり、各国の共同作業が重視されるようになった。1959年の南極条約は各国の領土要求を凍結して南極大陸の資源の平和利用に道を開いた。近年では地球温暖化の影響で極地の解氷が進み、船舶の航行可能な時期が増えたことから、北東航路の商業利用にも関心が集まっている。

世界史

問1 文中の空欄 ～ に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|------------|----------|----------|
| a アムンゼン | b アラスカ | c アンデルセン |
| d イェルマーク | e イヴァン3世 | f イヴァン4世 |
| g ウラディミル1世 | h オホーツク | i エリクソン |
| j カブラル | k カボット | l クック |
| m ゲーリング | n タスマン | o ドレーク |
| p ネルソン | q バルボア | r ピアリ |
| s ペリー | t ベーリング | u マゼラン |
| v ラクスマン | | |

問2 下線部(1)について、以下のa～dのうち、アフリカ大陸南端の地域の説明として最も適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ヨーロッパ人航海者として初めてこの地域に到達したとされるのは、ヴァスコ＝ダ＝ガマである。
- b 1713年、ユトレヒト条約でイギリスがスペインから獲得した。
- c 1814年、ウィーン会議でオランダ領となった。
- d 1910年、イギリス帝国内の自治領南アフリカ連邦の一部となった。

問3 下線部(2)について、この協定の名前を解答欄に記入せよ。

問4 下線部(3)について、以下の a～d のうち、ノルマン人の活動についての説明として最も適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 9世紀にロシア南部でノヴゴロド国を建国したが、13世紀にキプチャク＝ハン国と戦って滅ぼされた。
- b ロロを族長とする一派は10世紀に北フランスでノルマンディー公国を建国し、イングランド王と主従関係を結んだ。
- c ユトランド半島にデンマーク王国を建国し、11世紀にはノルウェーについてイギリスをも征服した。これを「ノルマンの征服(ノルマン＝コンクエスト)」と呼ぶ。
- d 12世紀、シチリア島とコルシカ島にまたがる両シチリア王国を建国した。このノルマン人の王国は国王ロジェ(ルジジェーロ)2世の時最盛期を迎えた。

※問4については、選択肢に不備があり、解答を導き出すことができない内容となっていたため、全員正解とする措置が取られたことが大学から公表されている。

問5 下線部(4)について、以下の a～d のうち、ヘンリ7世の治世当時のヨーロッパについての説明として最も適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 多くの国で王権が強化され、絶対主義への準備が行われた時期である。スペインでは、アラゴンとカスティリヤの2つの王国が合併し、スペイン王国が誕生した。
- b カトリック教会の教説に対して批判が強まっていった時期である。ドイツでは、マルティン＝ルターが贖宥状の販売に抗議し、これがきっかけとなって宗教改革が始まった。
- c オスマン帝国の勢力が本格的にヨーロッパに進出をはじめる時期である。オスマン軍はバルカンを越えてハンガリーに進出し、ウィーンを包囲した。さらにフランスとも同盟を結んだ。
- d イタリアではルネサンス文化の最盛期に当たり、レオナルド＝ダ＝ヴィンチの「モナ＝リザ」などの傑作が作られた。

問6 下線部(5)について、この同君連合の名前を解答欄に記入せよ。

世界史

問7 下線部(6)について、以下の a～dのうち、ピョートル1世の業績の説明として最も適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a コサックの首領ステンカ=ラージンに命じてシベリア進出を進めさせた。
- b クリミア半島をオスマン帝国から奪い、ロシア帝国領とした。
- c 清とシベリアのあいだの国境を確定し、アイグン条約を結んだ。
- d 北方戦争でスウェーデンから奪った土地に「西欧への窓」として首都ペテルブルクを建設した。

問8 下線部(7)について、以下の a～dのうち、フランス革命からナポレオン戦争の時期に行われた領土変更についての説明として最も適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 神聖ローマ帝国は1806年に解体され、新たにドイツ帝国が建国されたが、小ドイツ主義を唱えるプロイセンはこれに加入しなかった。
- b オーストリアは、イタリアに所有していた領土のうちヴェネツィア以外のすべてをウィーン会議により失った。
- c フランス領だったフロリダは、ナポレオンによってアメリカ合衆国に売却された。
- d オーストリア領だった南ネーデルラントは1797年にフランスに併合され、ナポレオン戦争後はオランダ王国の一部とされた。

問9 下線部(8)について、以下の a～dのうち、この時期のさまざまな探検や冒険、学術調査の説明として最も適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a イギリスの生物学者ダーウィンは、南半球諸地域の生態系を観察し、ガラパゴス諸島を発見した。
- b スウェーデンの地理学者ヘディンは、中央アジアを探検し、楼蘭遺跡を調査した。
- c イギリスの考古学者エヴァンズは、クレタ島の古代遺跡を調査し、ミケーネ文明の存在を確認した。
- d 間宮林蔵は、江戸幕府の命を受けて北千島列島を探検した。

問10 下線部(9)について、以下の a～dのうち、19世紀後半の時期のオーストリア帝国の説明として最も適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 1848年の革命の結果、自由主義的な改革がおこなわれ、1851年には新たな憲法と帝国議会がつくられた。この政治体制を「新絶対主義」という。
- b 1866年の普墺戦争敗戦の結果、ハンガリー王国の自立を認め、2国家に分裂した。
- c 1878年のベルリン会議の結果、ボスニア・ヘルツェゴビナの統治権を認められた。
- d 農民解放や工業化など近代化政策を推進した皇帝アレクサンドル2世は1881年、アナーキストにより暗殺された。

問11 空欄 , に入る、適切な語句を解答欄に記入せよ。

世界史

〔Ⅲ〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。

トーマス＝ベイズは、確率論の確立に寄与した18世紀を代表する数学者・哲学者の一人である。彼の名は、ベイズの法則として多くの分野で広く知られている。

ベイズは、17世紀に起こった多くの出来事の影響が残る1701年のイングランドで、シェフィールドにルーツを持つ非国教徒の家系に生まれた(1702年とする説もある)。

17世紀のイギリスでは、様々な政変が起こり、国家の体制は大きな変化を被った。イングランド内戦の結果、A が処刑されると、イングランドは共和政に移行する。1651年には航海法が制定され、貿易の保護と促進が図られた。だが、共和政は10年あまりで終わり、1660年には王政復古が実現し、処刑されたA の息子であるチャールズ2世が即位した。1685年にジェームズ2世が即位すると、国王と議会の対立が深まり、名誉革命へと至った。

ベイズは、スコットランドのエジンバラ大学で神学と数学を学んだ後に、1720年代にはロンドンで牧師の助手として働くようになった。教会で働く傍ら、1730年代には神学を扱った本と数学を扱った本の二冊を出版し、1740年代に王立協会の会員に選出された。

晩年は確率論に深い関心を持ち、いわゆる逆確率問題を解決するための方法を開発したが、公には発表されないまま1761年にタンブリッジ・ウェルズで亡くなった。確率論に関する著作や発見は死後に原稿という形で友人であったリチャード＝プライスに渡された。彼の尽力によって、ベイズの発見は1763年に王立協会の哲学紀要に掲載された。

その後、ベイズの法則は、フランスの数学者・天文学者であるラプラスによって現在の形に体系化された。

ベイズの法則は確率論や統計学の発展に大きく寄与しただけでなく、医学や経済学、物理学などの分野で広く応用されている。ベイズの法則は、科学技術の進歩とともに進化してきた、現代の世界に欠かせない理論の一つとなっている。最近では、イギリスにおける確率論の権威であるロンドン大学シティ校のビジネススクールが、彼の名を冠してベイズビジネススクールと改称されている。

問1 下線部(1)に関連して、1701年に始まり、1713年に結ばれたユトレヒトの和約をもって終結した戦争は何か。その名称を解答欄に記入せよ。

問2 文中の空欄

A

 に入る最も適切な人物の名を解答欄に記入せよ。

問3 下線部(2)に関連して、共和政下の1653年に護国卿に就任した人物として最も適切なものを以下のa～dのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|----------|---------|
| a ウォルポール | b グレシャム |
| c クロムウェル | d ミルトン |

問4 下線部(3)に関連して、航海法に反発してイギリスとの間で戦争に至った国として最も適切なものを以下のa～dのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | | |
|--------|--------|--------|---------|
| a オランダ | b スペイン | c フランス | d ポルトガル |
|--------|--------|--------|---------|

問5 下線部(4)に関連して、チャールズ2世の治世期に制定された法律として最も適切なものを以下のa～dのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| a 寛容法 | b 首長法 | c 審査法 | d 統一法 |
|-------|-------|-------|-------|

問6 下線部(5)に関連して、ジェームズ2世に関する記述として適切ではないものを以下のa～dのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a カトリック教徒であった。
- b チャールズ2世の息子だった。
- c 信仰自由宣言を出して、議会と対立した。
- d 亡命後、ウィリアム3世とメアリ2世が国王に即位して共同統治した。

世界史

問7 下線部(6)に関連して、1603年にスコットランド王ジェームズ6世がイングランド王ジェームズ1世として即位したが、ジェームズ1世に関する記述として適切ではないものを以下のa～dのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 王権神授説を信奉した。
- b エリザベス1世の死後にイングランド王に即位した。
- c 議会を無視する統治を行ったため、権利の請願が出された。
- d 彼のピューリタンへの弾圧が、ピルグリム＝ファーザーズの北米への入植のきっかけとなった。

問8 下線部(7)に関連して、1731年に死去した『ロビンソン＝クルーソー』の著者であるイギリスの小説家は誰か。その名前を解答欄に記入せよ。

問9 下線部(8)に関連して、1740年代のイギリスで『メサイア』などの多くの音楽を作曲し、バッハとともにバロック音楽を大成したと言われるドイツ生まれの音楽家は誰か。その名前を解答欄に記入せよ。

問10 下線部(9)に関連して、のちに市民的な自由やアメリカ独立戦争などを擁護して有名になったプライスは、アメリカでも高く評価され、1781年にはイエール大学から名誉学位を授与された。同じ年に同じ学位を授与されたなかには、第2回大陸会議で植民地軍総司令官に任命された人物もいた。この人物は誰か。その名前を解答欄に記入せよ。

問11 下線部(10)に関連して、1763年は七年戦争が終結した年であるが、この戦争においてプロイセン側についた国として最も適切なものを以下のa～dのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a イギリス
- b オーストリア
- c フランス
- d ロシア

問12 下線部(11)に関連して、18世紀の医学者で、天然痘の発症を予防する種痘法を理論化した人物として最も適切なものを以下の a～d のうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

a ジェンナー

b ハーヴェー

c ホイヘンス

d メンデル